

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	ともいきスクール			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	27
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		～	2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 2日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国家資格者による専門的な個別療育体制	11月より言語聴覚士を配置し、専門的なSST（ソーシャルスキルトレーニング）や言語療育を開始しました。1Fの静かな個別療育スペースを活用し、ことばやコミュニケーションの土台作りから対人スキルの向上まで、専門性の高い支援を提供しています。	言語聴覚士によるアセスメントの結果を全スタッフで共有し、個別療育の時間以外（日々の遊びや生活）でも、一貫したコミュニケーション支援が行えるようチームの専門性を高めていく。
2	学校復帰・社会参加への確かな実績	不登校のお子様に対し、学校・相談員・ヘルパーと強固に連携。当事業所への通所が「出席認定」となるケースや、別室登校・授業参加へのステップアップを実現したお子様を多数輩出しています。この実績は役所からも高く評価されており、教育と福祉が一体となった支援を実践しています。	「出席認定」や「別室登校」に留まらず、復帰したお子様が学校内で自信を持って過ごせるよう、学校側と連携した「校内での合理的配慮」の提案や、継続的なモニタリング体制を強化する。

3	多機能型を活かした一貫性のある支援	児発（1F）と放デイ（2F）でフロアを分離し、年代に合わせた環境を整えつつ、専門療育資源を共有しています。未就学児から就学児まで、言語聴覚士による専門的なアプローチを継続して受けられる一貫した支援体制が、保護者様の安心感に繋がっています。	児発から放デイへの移行期において、言語聴覚士の知見や支援目標を途切れさせることなく引き継げる「内部連携マニュアル」を整備し、長期にわたってお子様の成長を支える体制をより強固にする。
4	透明性の高い安全管理体制	防犯カメラを設置し、常に支援の様子を可視化することで、虐待防止や事故発生時の迅速な事実確認が可能な環境を構築しています。また、言語聴覚士によるSST等も必要に応じて振り返ることで、安全かつ質の高い療育の維持に努めています。	カメラ映像を単なる防犯目的だけでなく、スタッフ間の支援技術の共有や、ヒヤリハット事例の具体的な検証に活用し、事業所全体の危機管理能力と療育スキルのさらなる向上を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職とのチームアプローチの深化	11月より言語聴覚士（ST）を配置したが、その専門的知見を現場スタッフ全員が支援の中で再現・継続する仕組みがまだ発展途上である	言語聴覚士による定期的な内部研修やケース検討会を開催。全スタッフが専門的なアセスメント視点を持ち、日常生活の中でも一貫した言語・コミュニケーション支援が行える体制を構築する。
2	支援記録の分析・検証プロセスの深化	日々の活動記録やヒヤリハットの記録は行っているが、客観的な分析（数値化・構造化）を行い、次の計画へ反映させるサイクルをより強固にする必要がある	定期的なケース検討会を定例化し、記録や防犯カメラ映像からお子様の行動変容やニーズを深く読み取る「アセスメント力」を全職員で研鑽する機会を増やす
3	客観的な視点による外部評価の未実施	日々の運営と新規事業（児発）の立ち上げに注力しており、外部機関による客観的な評価を受ける機会を十分に確保できていなかった。	サービスの透明性と信頼性をさらに高めるため、次年度中に第三者評価を受審する。外部の専門的な視点を取り入れることで、多機能型事業所としての運営の質を客観的に検証し、さらなる改善に繋げる。